

特別展

# 記憶の旅

どこか懐かしい景色と優しい色合い。日常の小さな気づきを綴る富弘作品は、私たちの記憶の中にある情景を思い起こさせ、感情を揺さぶります。作品に描かれる四季折々の草花や風景は、私たちの記憶の中にあるようでない、追体験の旅への誘いとなり、日常の小さな一コマを愛おしく感じさせるのではないかでしょうか。本展では、「さくら」や「ねこじゃらし」、「じゃがいもの花」などの“記憶”に焦点を当てた作品を展示します。ぜひ、ご鑑賞ください。



「さくら」 1977年



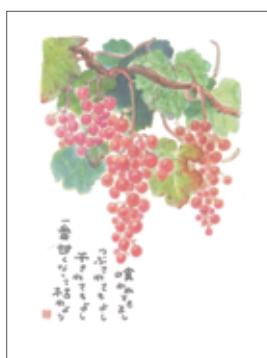
「ねこじゃらし」 1981年



「じゃがいもの花」 1985年

## 季節の常設展「夏」

「ぶどう」や「男タルモノ」、「あさがお」など、夏をテーマとする作品を展示します。



「ぶどう」 1999年



「男タルモノ」 1987年



「あさがお」 1980年

## 【お知らせ】

### ●次回展覧会のご案内

### 特別企画展「本日は晴天なり」

2022年9月27日(火)~12月11日(日)

不慮の事故により始まった星野の入院生活。声を出すこともできない状態が続く中で、約1ヶ月ぶりに発した最初の言葉は「本日は晴天なり」でした。本展では、空模様をテーマとした作品を展示します。

### ●富弘美術館（群馬県みどり市）情報

特別展「花びらを調べにのせて」開催中！

2022年8月28日(日)まで

星野富弘の作品と共に楽譜を展示。音楽にもなって親しまれている星野の詩の世界を探ります。

どうして熊本県芦北町に星野富弘美術館？

休止されていた「星野富弘花の詩画展」が、1994年の熊本県立美術館での開催を境に再開されます。それが契機となり、その1年後に「星野富弘詩画がある芦北ふるさとギャラリー」が芦北町に開設。以後、交流が続くなかで富弘美術館（群馬県みどり市）の唯一の姉妹館として、2006年に「芦北町立星野富弘美術館」が誕生しました。当美術館は、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければ幸いです。



星野 富弘 (ほしの ともひろ)

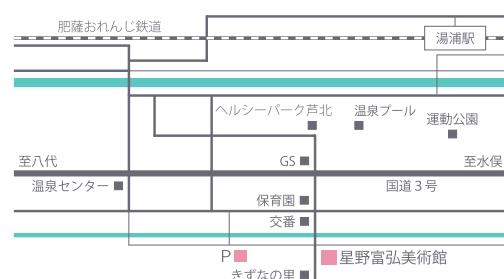
1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。大学を卒業後、中学校の体育教師になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したときに誤って頭部から転落。頸髄を損傷し、首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵を書きはじめる。前橋で最初の作品展を開く。退院後、新聞等に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催。以降、全国各地また海外でも開催され現在も続いている。1991年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。2006年、芦北町立星野富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

## ミュージアムショップ

星野富弘『花の詩画集』をはじめ、その他書籍、絵はがき、詩画集カレンダー等さまざまな商品を取り揃えています。観覧料なしでご利用できますので、お気軽にお立ち寄りください。

## 美術館までのアクセス

○JR九州新幹線「新水俣駅」から肥薩おれんじ鉄道線で「湯浦駅」まで13分／湯浦駅から歩いて15分○JR九州新幹線「新八代駅」から肥薩おれんじ鉄道線で「佐敷駅」まで55分／佐敷駅からタクシーで10分○九州自動車道「八代IC」から南九州西回り自動車道「芦北IC」まで30分／芦北ICから15分○南九州西回り自動車道「水俣IC」から津奈木ICまで5分／津奈木ICから15分



※美術館玄関前に、障がい者用駐車スペースがございます。  
※バス等の駐車については、美術館までお問い合わせください。



芦北町立

星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町湯浦 1439-2  
TEL:0966-86-1600 FAX:0966-86-1600  
<http://www.hoshino-museum.com>

(姉妹館) 富弘美術館・群馬県みどり市東町草木 96 TEL:0277-95-6333 FAX:0277-95-6100